掲示文書

課題名「頚動脈狭窄症に対するステント留置術後の再狭窄の危険因子」

１．研究の背景

頚動脈ステント留置術は頚動脈狭窄症による脳梗塞予防を目的とする治療法で、外科的治療である内膜剥離術よりも低侵襲です。しかしステント治療を受けた方の中にはステント内に再狭窄をきたす方がいます。我々は治療前の CT によるプラーク診断でステント内再狭窄の危険因子を検索します。

２．研究内容

頚動脈狭窄症に対するステント留置術の長期的合併症としてステント内再狭窄が挙げられます。当科でステント留置術を行った患者で外来通院中に再狭窄を認めた群と認めなかった群に分けて、その危険因子を後方視的に解析します。

３．対象

2007 年から 2012 年に当院で頚動脈ステント留置術を行った患者さんのうち、治療前に造影 CT でプラーク診断を受けて治療後に頚動脈エコーを外来で行った方を対象とします。

４．研究の方法

治療後に行った頚動脈エコーで再狭窄の有無について調査します。病院で撮影された画像と検査値の比較検討を行い、再狭窄についての危険因子を調査します。

５．プライバシーの保護について

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いたうえで研究資料として使わせていただきます。このような情報を除いたものであっても金沢大学脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためにのみ使用し、最長５年間保管管理を行ったうえで、破棄する予定としています。

この研究調査の対象になる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意志です。ご参加を希望されない場合はお手数ですが、2015 年 2 月 1 日までに研究責任者までご連絡いただけますようお願いいたします。またいったん同意なさる意向でありましても、後に同意を撤回される場合には研究期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。

なお、参加を希望なさらない方についても、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。

金沢大学医薬保健研究域医学系　脳・脊髄機能制御学
研究責任者　林 裕　　電話 076-265-2384
お問い合わせ先（見崎孝一）電話 076-265-2384